

松本短期大学同窓会会報

2020年度号

発行：松本短期大学同窓会

発行日：令和2年7月

印刷所：電算印刷株式会社



活動も自粛に

同窓会長 手塚富喜子

ようやく自粛解除になったとはいえ、新型コロナウイルスの終息はいつになるのか見通しのつかない中、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

多くの会員の皆様が働く現場、今でも新型コロナウイルス感染予防に神経をすり減らしながらの勤務の日々が続いていることと思います。オンラインでできる仕事ではなく、対面しかも抵抗力の無い乳幼児やお年寄り、そして病氣治療の方介護を必要とする方と少しの気の緩みも許されない職場、本当にご苦労様です。ご自身の体調にも十分ご留意され頑張っていたきたいと思います。

母校では、4月8日からの休校も7月からは通常授業が再開になったようですが、コロナ対策に学校も学生も大変だったと伺っております。

同窓会も4月の定例理事会は書面による議決となりました。昨年度は大きな活動として、母校の大学歌制作費用の援助を行いました。10月のおとぎ祭において校歌の御披露目が開催されました。

そして、いよいよ来年は母校の50周年。記念事業についても具体的な話を始める予定になってはいますが、新型コロナウイルスの状況をみながら慎重に進めていきたいと思っています。内容が決まりましたら、会員の皆様には改めてお知らせしていきます。

各学科同窓会活動も様子をみながらの活動になりますが、会員、母校、後輩のためにできる限りの活動をしていきます。今年度も会員皆様のご協力をよろしくお願致します。



コロナ禍と授業

松本短期大学学長 木内 義勝

コロナで世間はゆれている。大学も授業を確保する困難に直面している。

松本短期大学は、入学式を何とか挙行了した。「3密」を避け来賓と保護者の出席を遠慮願ひ、全員がマスクを着用して20分ほどで終了した。理事長と学長の式辞を2〜3分で済ます代わりに、あいさつ文を新入生に配布した。普段は気づかない「当たり前前の生活」の貴重さを、早く取り戻すことへの思いを込めた。

幸いなことに、入学式に続く4日間で、オリエンテーション、受講届、健康診断、教科書配布を終えることができた。学生の登校ができない4月8日から5月20日の間も、対面授業の代わりに、課題提示によるレポート作成を中心に、遠隔教育を行うことができた。学生は、このやり方でずいぶん苦労したと思う。授業に出席して先生の講義や説明を聴く代わりに、課題に対して求められる回答をすべて自分で探さなければならぬからだ。大変だったよと学生が話していた。

考えてみれば、勉強とは基本的に「独学」に基づくものではないだろうか。平常時の授業でも、先生の話聞いて、自分なりに工夫して頭に入れたものだけが「使える知識」になる。その意味から、今回の「強いられた苦行」は、教職員と学生の双方に、教育の原点を考える上で、よい教訓になった。とはいえ、現在5月末の時点で、コロナウイルス感染の終息にまだ出口は見えない。対面授業が再び中断される場合を想定して、情報通信技術の活用による遠隔授業を本格的に検討している。今まで経験したこともない事態に直面して苦労しているのに、学生が笑顔で挨拶を返してくれることがうれしい。

新型コロナウイルス感染と戦う 保育の現場から

同窓生の報

「コロナウイルスなんて」と、どこか他人事だと思っていた3月から一変して新しい園生活と共に急に身近になった4月、感染予防として朝夕の検温に加え保育士は終日マスク着用となりました。普段ほとんどマスクをして保育をした事がなく、一番困ったのは子どもに表情が伝わりづらくなったことです。

怒った顔や嬉しい顔、褒める時など子どもと接する時は“表情”を大切にしてきましたが、それが出来なくなってしまったので、声のトーンやジェスチャーでの表現など工夫を凝らしました。子どもたちが密にならないようにと、遊戯室の時間割りや共有スペースの使い方、触るところを入念に拭き掃除をするなど、どうしたら子どもたちが安心して過ごせるのか日々職員間で話し合いを重ねてきました。

これからまだ予断を許さない日が続くと思いますが、子どもたちの楽しい園生活ために園全体でコロナウイルスへの対策を繰り返し、保育士としても状況に合わせて工夫する保育の力をつけていきたいと考えています。

松本市私立保育園勤務 M.Tさん（平成28年度卒）

「今日はね、13人お休みだったよ。全然〇〇くん来ないんだよね。」

4月中旬、年中組になった息子が毎日言っていた言葉でした。保育士の私は、息子を保育園へ登園させていましたが、自粛でクラスの半分位が休んでいたようです。

みんなに会えない子どもの寂しさ、自粛と示されても働かなくてはいけない親の気持ち、自粛ができて身動きとれないストレス。どれも痛いほどよくわかりました。でも、この自粛生活を辛いと思わずに過ごそうと決めた私は、毎日息子とお互いの散歩（三密防止活動）自慢をし、見つけたものを今度探しに行こうと約束して、楽しく乗り越えてみました。

松本市立保育園勤務 Y.Kさん（平成7年度卒）

塩尻市一のマンモス園（園児数190人）に勤務しています。新型コロナウイルス対策が始まり、4月早々から登園自粛をお願いしたところ、多い日は120人の子どもの家庭が自粛欠席しました。5月末で自粛登園は一区切りになりましたが、6月になって初めて登園した子どもたくさんいました。

他園同様にコロナ対策が行われ、活動が制限されてはいますが、子どもたちが毎日楽しく満足して帰れるように、職員が日々遊びや活動を工夫しています。

また、コロナ対策の真ただ中に、不足していたマスクを寄付してくださるご家庭があり、とても助かりました。

塩尻市立保育園勤務 M.Uさん（平成8年度卒）

▲▲▲ 令和元年 2019年度 幼児保育学科同窓会事業報告 ▲▲▲

第7期生 懐かしの母校へ

40年後のホームカミングデー

卒業後40年にあたる昭和53年度卒業生のためのホームカミングデーを母校にて11月16日（土）に実施しました。県内外から14名の友が集い、恩師の柳沢先生のご参加もいただきました。40年前にタイムスリップしたかのような皆さんの楽しいお話や笑顔が印象的でした。



「パペット人形作りと演じ方講習」

昨年度は保育実践により効果的なパペット人形に7月10日（水）に1年生99名が挑戦。

「劇団やまんば」の皆さんの指導により、幼児が一瞬で引き付けられそうな人形を作りあげ、演じ方の実践を行いました。

保育現場で楽しく活用してください。



令和2年度 2020年度 幼児保育学科同窓会事業予定

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために、当初予定されていた事業の大幅な見直しが必要になりました。内容を次のように変更いたします。

■「40年後のホームカミングデー」

今年は昭和54年度（昭和55年3月）に卒業された8期生の皆様を11月にお招きする予定でしたが、感染の終息が未知数であるため、今年度のカミングデーは大変残念ですが中止することにいたしました。楽しみにされていた皆様には大変申し訳ありませんが、来年こそはご案内できることを願っております。

■幼保生への「棒人形作り&演じ方講座」

今年度は、感染対応のために入学式後の授業が大幅に遅れ、授業の中に講座の組み入れが難しい状況になりましたので、劇団「やまんば」に依頼し、出来上がった状態のパペット人形を、演じ方のテキストを添えて1学年の学生の皆さん98名に贈ることになりました。保育実習での有効利用を期待します。

介護福祉学科 特集

1期生 卒後25年目のホームカミングデー

— 私たちになくてはならない存在、それが母校介護福祉学科 —

◆介護福祉学科1期生の時代

1993（平成5）年4月、松本短期大学は全国の大学・短期大学に先駆けて、最初に「介護福祉学科」の名の付く学科を創設しました。翌1994（平成6）年には、日本の総人口約1億2,300万人に対して65歳以上人口が約1,760万人となり、高齢化率は14%を超え、日本は「高齢社会」に突入しました（総務省統計局）。つまり、松本短期大学は、先見の明により、こうした社会情勢を的確に読み取り、「介護福祉学科」の開設に踏み切ったこととなります。

こうした社会的背景も影響し、介護福祉学科1期生は長野県内だけでなく、全国各地から集まりました。遠くは北海道、大阪府、福島県などからも来ており、長野県外の入学生が21人もいたという状況でした。そして1学年「90人」という、今では考えられない人数の中で介護福祉士養成教育が開始されたのです。この時は、おそらく現在のよ様な学生確保がままならない時代が到来することを誰も予想していなかったと思います。



◆「卒後25年目のホームカミングデー」の開催

こうした「高齢社会」という時代背景や「90人」という入学生数、介護福祉士養成教育を受けた「草分け」という意味から考えても、介護福祉学科1期生は社会的な期待を受けつつ、松本短期大学介護福祉学科の礎を築いてくれた存在であったといえます。そして、その偉大で記念すべき1期生の卒業後25年目を祝し、2019（令和元）年11月16日（土）に「松本短期大学介護福祉学科1期生—卒後25年目のホームカミングデー」が開催されました。会場となったのは、現在も介護福祉学科の学生が主として使用する305教室で、当時と変わらない雰囲気「懐かしい」「当時がよみがえる」などの声が1期生から聞かれました。



◆久し振りの友人や恩師との再会

当日は、介護福祉学科1期生のうち16人の卒業生が久し振りに母校松本短期大学に集いました。さらに介護福祉学科の開設に携わった大谷美津子先生（1993～1995年在籍）や柳澤秋孝先生（当時の設置準備室副委員長・元幼児保育学科教授）も来られ、友人や恩師との再会を喜び合いました。

今回の「卒後25年目のホームカミングデー」の発起人で、介護福祉学科同窓会の柳沢佳澄会長からは「久し振りに会えた人もおり、このような機会をつくることができ、本当に良かった。今日は学生時代を思い出し、参加者同士の交流をさらに深めてほしい」との挨拶がありました。また、大谷先生からは「あんた達もえらくなかったね」「大したものだ」など、卒業生の努力・活躍へのねぎらいとともに久し振りに大谷節を聞くことができました。柳澤先生からは、当時“ある1期生が母校で仕出かした武勇伝”が語られ、周囲を笑いの渦に包ませてくれました。

◆近況報告・キャンパス見学—発展し続ける母校を実感

次に、介護福祉学科の福田明先生（介護福祉学科4期生）から母校の近況報告が行われ、その中で2021（令和3）年4月開学を目指し、看護学科の4年制化に向けて準備が進んでいることなどが伝えられました。1期生からは「看護学科が4年制となった場合、介護福祉学科はどうなるの?」「校舎は新しく建てるのか?」といった質問が出るなど、その関心の高さがうかがえました。

また、完成したばかりの松本短期大学「大学歌—あなたに届けたい」（山岸千代栄作詞・大中恩作曲・



山田真治補作）がお披露目されました。爽やかな秋空のもと、素敵な「大学歌」の音色・歌声が響き、参加者の心を癒しました。参加者に「大学歌」のCDが配られると「嬉しい!」「さっそく帰りの車中でも聴きます!」などの感想が聞かれました。

その後、当時はなかった2号館、人工芝のグラウンド、学食、立派な体育館、整備された中庭・昇降口などを見学しました。ある卒業生が「俺も、こんな体育館でバスケしたかった」と述べるなど、1期生は発展し続ける母校を誇らしく感じたようです。

◆私たち卒業生になくってはならない存在—母校介護福祉学科

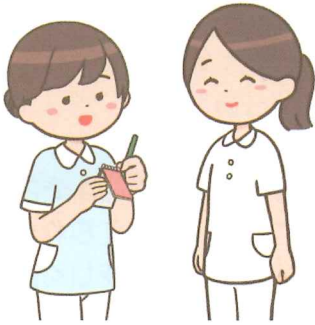
確かに母校介護福祉学科での学生生活は2年間と限られています（ただし、留年すれば話は別）。しかし、母校介護福祉学科は2年間だけでなく、卒業後も、ともに学び・励まし合い、次なるステージに向かう力を育んでくれる場所でもあります。介護福祉学科を卒業して25年目を迎えた1期生は、今回のホームカミングデーを通して、そうした母校介護福祉学科の存在意義を再認識することができたようです。

1期生だけでなく、すべての卒業生が今日よりも明るい明日に向かって進むためにも、“母校介護福祉学科はなくてはならない存在”であることに間違いありません。



どのような時代になろうとも、介護福祉学科同窓会は在学生や卒業生を支えています！

松本短期大学看護学科から 松本看護大学へ！



松本短期大学看護学科は、令和3年4月開学予定の松本看護大学（4年制）設置のため、令和2年度の入学生を最後に学生募集を停止し、在学生在が卒業するまで存続します。

短期大学においては多くの卒業生を輩出し、松本市を中心に長野県の地域医療に貢献してきたのは論を待たないことです。しかし、3年間の就学期間では医療の変革や同じ履修期間の専門学校

と違い短大として一般教養が多く卒業への単位数が多いため、学生の学習負担が重く、ゆとりのない3年間となってしまうのも現実です。これらのことを勘案して、母体となる松本短期大学の文化や教育的資源を継承した4年制大学を開学することになりました。現在は設置認可申請中ではありますが、設置許可が下り次第学生募集を開始するところまで来ています。

新たな松本看護大学の看護教育は、国の地域包括ケア進展に伴い、地域課題に対応できるスキルを身に付け地域医療で活躍する看護師の育成を目指します。教育の特徴としては、4年制になることで現在の領域別看護の他に、将来のキャリア形成に役立つ3つの応用看護科目（在宅看護・公衆衛生・救急災害）を設置します。教育方法は、少人数制グループワークを基本とした教育ゼミナールで、課題探求能力・問題解決能力・研究力の基礎をはぐくみたいと考えています。教育の拡充、学生数の増加に伴い、施設においても講義室及び実習室の新設を行い、4学年が学習できるように新棟建設準備がされています。

現状について、大学への経緯を簡単に書かせてもらいましたが、松本短期大学看護学科は在校生がいる限り継続しますので同窓会の皆様に置かれましては、今後も御支援を宜しくお願いいたします。

看護学科長 宮坂光長



2019年度 看護学科同窓会 事業報告

暑い日差しの中、自粛生活お疲れ様です。

緊急事態宣言は一旦解除されている状態ですが、自粛生活は続き、疲労やストレスも溜まっているかと思います。同窓会の方でも会議等の集会は行わず、感染拡大防止を第一に考え活動を続けています。以下、活動報告です。

◇国家試験応援会

2020年2月15日、看護学科同窓会長、去年の卒業生が応援に駆けつけ応援に参加。在校生、教員とともに出発を見送った。一人一人の試験への緊張感、意気込みが伝わり、去年の卒業生からの温かく・緊張感を取るような場の和むエールが送られていた。

◇職場相談会（新型コロナウイルス感染防止のため中止）

岡谷市民、相澤、まつもと医療センター、松本市立、松本協立病院より卒業生が病院から派遣され、相談役として参加予定であったが、新型肺炎の拡大予防のため中止。

◇卒業記念品贈呈

松本短期大学の名入れされたハサミを卒業生へ贈呈。贈呈式は感染防止のため行わず、教員から贈呈となった。

先の見えない自粛生活の長い闘いが続くと思われませんが手洗い、うがい、アルコール消毒の実施、マスクの着用。以上を徹底して、夏の暑さも重なり大変ですが体を大切に頑張って乗り越えていきましょう！



看護学科同窓会長 有馬 廉

石鹸・流水で20秒以上流す

❖ 住所不明者が増えています ❖

住所、氏名の変更があったときはお知らせ下さい。

連絡先：松本短期大学内 事務局 ☎0263-58-4417

(学科・卒業年度・学籍番号をお伝え下さい。)

令和元年度 事業報告

平成31年

- 4月2日 母校入学式参列(会長)
会費徴収(幼保3名・介護3名・看護1名)
- 4月6日 会計監査
- 4月20日 定例理事会
17:30~ 場所松本市「仙岳」
出席15名・委任状8名

令和元年

- 5月上旬 同窓会報発行委員会学科毎発足
以降発行に向けてそれぞれ活動
(6月16日全体での発行委員会)
- 6月上旬 名簿整理
- 7月上旬 同窓会報発行
☆母校創立50周年事業として寄付を集める
・会報に興味書と振込用紙を同封する
・一口 3000円
・集金期間 会報発行~9月末日まで
- 9月 「おとぎ祭」への援助
援助金として20万円自治会に送る
- 10月 短期大学校歌お披露目会(おとぎ祭にて)
校歌制作費用援助

令和2年

- 2月10日 同窓会入会案内配布依頼
- 3月14日 本部役員会
18:00~ 場所松本市「泰」
本部4名 幼保1名 介護2名
計7名出席
- 3月13日 母校卒業式(コロナウイルスにともな
って卒業式縮小の為、来賓の参列なし)
令和元年度卒業生に同窓会しおり配布

令和2年度 事業計画

令和2年

- 4月2日 母校入学式(自粛の為参列なし)
会費徴収(幼保4名・介護2・看護1名)
- 4月11日 会計監査
- 4月末日 定例理事会
- 5月上旬 同窓会報発行委員会学科毎発足
以降発行に向けてそれぞれ活動
(6月中旬 全体での発行委員会)
- 6月上旬 名簿整理
- 6月上旬 母校創立50周年記念事業実行委員会発足
母校と協議していく
(令和3年6月頃式典開催予定)
- 7月上旬 同窓会報発行
- 9月 「おとぎ祭」への援助

令和3年

- 2月上旬 同窓会入会案内配布依頼
- 2月末 役員改選について
- 3月上旬 本部役員会
- 3月中旬 母校卒業式参列(会長)
令和2年度卒業生に同窓会しおり配布

- ☆母校創立50周年事業として昨年に引き続き
寄付を集める
・会報に興味書を同封する
・一口 3000円
・集金期間 会報発行~9月末日まで

令和元年度 一般会計収支決算書

松本短期大学同窓会

収入の部

項目	本年度 予算額	本年度 決算額	内 訳
①会費等収入	1,810,000	1,810,000	10,000×181人(元年度新入生196名)
②特別会計より	1,850,000	1,850,000	
③雑収入	0	2	利息
合 計	3,660,000	3,660,002	

支出の部

項目	本年度 予算額	本年度 決算額	差 額	内 訳	
(1) 通年運営費	会議費	300,000	272,647	27,353	理事会、役員会経費、役員手当
	事務費	10,000	2,624	7,376	コピー代、用紙
	通信費	5,000	8,985	-3,985	葉書・切手 電話代
	おとぎ祭援助金	200,000	200,000	0	
	雑費	20,000	0	20,000	慶弔費等
同窓会案内しおり	0	0	0		
(2) 会報発行費	発行関係費	750,000	752,183	-2,183	2183円は予備費より補填
	名簿整理費	10,000	10,000	0	
(3) 各学科 活動費	幼児保育学科	350,000	350,000	0	
	介護福祉学科	300,000	300,000	0	
	看護学科	210,000	210,000	0	
	手数料	2,000	2,170	-170	振り込み手数料
(4) 記念事業費	校歌制作援助費	1,500,000	1,500,000	0	
(5) 予備費	予備費	3,000	2,183	817	会報発行費
決算額合計			3,608,609		
特別会計繰入			51,393		
合 計	3,660,000	3,660,002			

令和2年度 一般会計収支予算書

松本短期大学同窓会

収入の部

項目	前年度 予算額	本年度 予算額	内 訳
①会費等収入	1,810,000	1,980,000	令和2年度新入生10,000×186名 前年度未納分10,000×12名
②特別会計より	1,850,000	0	
③雑収入	0	0	利息
合 計	3,660,000	1,980,000	

支出の部

項目	前年度 予算額	本年度 予算額	差 額	内 訳	
(1) 通年運営費	会議費	300,000	200,000	-100,000	理事会、役員会経費、役員手当
	事務費	10,000	10,000	0	コピー代、用紙
	通信費	5,000	30,000	25,000	葉書・切手 電話代
	おとぎ祭援助金	200,000	200,000	0	
	雑費	20,000	20,000	0	慶弔費等
同窓会案内しおり	0	0	0		
(2) 会報発行費	発行関係費	750,000	780,000	30,000	
	名簿整理費	10,000	10,000	0	
(3) 各学科 活動費	幼児保育学科	350,000	330,000	-20,000	別紙
	介護福祉学科	300,000	200,000	-100,000	別紙
	看護学科	210,000	130,000	-80,000	別紙
	手数料	2,000	2,500	500	振り込み手数料
(4) 記念事業費	校歌制作援助費	1,500,000	0	-1,500,000	
	50周年記念委員会	0	50,000	50,000	
(5) 予備費	予備費	3,000	17,500	14,500	
合 計	3,660,000	1,980,000	-1,680,000		